



幼保小架け橋だより

第2回・第3回 検討委員会

【第2回】令和7年9月16日(火)15時～16時30分
【第3回】令和7年11月4日(火)15時～16時30分

相互参観（令和7年7月～9月）の事後協議をもとに、事務局よりカリキュラム作成に向けた「協議シート」を作成し、以下の項目を視点として協議を進めています。

- ① 「めざす子ども像」
- ② 「具体的な育ってほしい姿や力」
- ③ 「園所での活動・小学校の生活科を中心とした単元等」
- ④ 「指導上の配慮事項：保育者や教師のかかわり」
- ⑤ 「 // : 環境構成・環境づくり」
- ⑥ 「子どもの交流」
- ⑦ 「地域や家庭との連携」



「めざす子ども像」

三木市の教育が育成をめざす資質・能力「主体性」「協働性」「創造力」の3つの柱をもとに、0～15歳を見通した学びの連続性にも配慮し、12歳・15歳のめざす姿を共有しながら、「6歳・7歳のめざす姿」について、話し合いました。

「育ってほしい姿や力」

「めざす子ども像」の実現のために、育みたい資質・能力について、協議をしました。

就学前と小学校ごとのグループに分かれて協議をしました。それぞれのグループでの協議内容を、全体で共有し振り返りを行うと・・・

三木市幼保小架け橋のキャリアシステム (イメージ図)

	幼稚園 (3歳)	保育園 (3歳)	小学校 (1年)	小学校 (2年)	小学校 (3年)	小学校 (4年)	小学校 (5年)	小学校 (6年)
めざす子ども像	自己肯定感・主体的な関わり 社会性・協働性 生活習慣・生活力							
具体的な育ってほしい姿や力								
園所での活動・小学校の生活科を中心とした単元等								
指導上の配慮事項：保育者や教師のかかわり								
環境構成・環境づくり								
子どもの交流								
地域や家庭との連携								

めざす子ども像は、6歳と7歳の姿で共通していることが多い。

主体性の捉え方に、差があると感じる。

スタート期は、いきなり「小学校」感を出しすぎず、まずは「学校が楽しい！」と思えることが大事。前向きな気持ちで、やってみよう！挑戦しよう！という主体性につながるのでは。



「育ってほしい力」に違いがある。就学前は、友だちとの関わり、遊びへの意欲などが重点的になっているが、小学校では自分でできることは自分でなど、生活自立の内容が多い。

小学校のスタート期に、突然泣き出す子がいる。「わからない時に聞く力」は必要だと思う。

子どもたちが迷ってしまう壁があると感じる。

就学前の話し合いのスタイルは、輪になったり、小集団になったりして、自分たちで距離感やタイミングを計りながら話し合うことも多い。主体的に話し合える場があるとホッとすることもできる。

🎧 鈴木委員長より助言

- 安心感をもつためには、教師と一緒に遊ぶ、教師が子どもたちの話を聞いてやる、ほめてやることが大切である。その子のことを知りたいというプログラムを、スタート期に多く入れておくと、泣くことはなくなる。安心感をもてると、向上心も一緒に育まれる。
- 「人に聞く」などは、経験しておかないとできないので、困った時は先生に聞くことや、校長先生へお手紙を届けるおつかいなど、幼児期にいろいろな体験しておくことが大切。幼児期の探究活動の経験の中で、調べること、人に尋ねることをする。その経験が泣かずに誰かに聞けることにつながる。
- 主体性の捉え方に、就学前と小学校で違いがある。就学前は、やりたいことをクリエイティブにやる、小学校はゴール目標に達成するために活動すると捉えるため、これは自主性ではないか、と違いが出てくる。学校はさせるべきことはあるのだが、それを子どもが自分からしているように思わせることが必要。
- 責任感が持てるような活動をする前に、自分で自信を持って言える場や姿があるかが大切。

「園での活動・小学校の生活科を中心とした単元等」

「指導上の配慮事項：保育者や教師のかかわり、環境構成・環境づくり」

についても、グループワークを行いました。



協議を重ねる中で、就学前施設と小学校、それぞれの先生方が**共通して大切にしていること**が確認されるとともに、両者の**価値観の違い**も次第に“見える化”されてきました。

今後は、それらを整理しながら互いに理解を深め、語り合うことを大切に、カリキュラム作りを進めてまいります。

